

インタビューの指導について



教科書教材研究会

三年生の教科書上巻最後の单元「みんな、子どもだったに、インタビューをする活動があります。

夏季休業中に、学習計画をお立てになる先生が多いかと思ひます。そこで、インタビュー指導についての悩みや疑問を十項目のQアンドAにまとめてみました。

Q 1

子どもたちは、特に指導しなくても、いろいろな学習場面で、課題を解決するためにインタビューをしています。それなのに、国語科で改めてインタビューの指導をするのは、なぜでしょうか。

A 1

確かにいろいろな教科や領域で、子どもたちはインタビューをしています。では、その様子はどのようでしょうか。



Q 2

インタビューは、とても高度な言語活動だと思いますが、三年生にはむずかしいでしょうか。

A 2

テレビやラジオ、雑誌などで行われているインタビューは、聴衆や読者を想定し、その人たちの興味や関心を満たすために相手から話を聞き出すものです。これは、確かにとても高度です。

そこで、三年生では、第三者を想定せず、自分と相手の一対一の関係の中で、自分の知りたいことや調べたいことを尋ねるようにします。

この場合のインタビューは、聞き手が主体で役割が固定しており、相手の言葉を受けて返す力と、積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を育成します。

相手の都合も尋ねずに、いきなり質問をしていないでしょうか。メモを棒読みするだけのインタビューではありませんか。あらかじめ用意していた質問をするだけの一问一答になっていないでしょうか。何も指導をしないとこのようなインタビューになります。

国語科では、インタビューのやり方を学ぶことが大切です。「インタビューをしてよかった」という快い体験を通して、言葉による「伝え合う力」を育むのが、国語科での指導です。その力は、他の教科や領域の学習に大いに生かすことができます。

この「みんな、子どもだった」では、世代を越えた人生の先輩に、三年生の子どもたちが胸を借り、言葉の力で挑みます。



Q 3

教科書七十一ページに六枚の写真がありますが、どのように活用すればよいのでしょうか。

A 3

インタビューは、直接人に会って、必要な知識や情報を得るために話を聞く活動です。主体である聞き手が、だれに対して、何についてどのようなことを、どのくらい具体的に聞きたいと思っているかが、活動への意欲となります。

六枚の写真から、何について、どのようなことを、だれに尋ねたらよいのか、たくさんの方見をさせてください。ここで大切なのは、互いの発見を聞き合うことです。さらに新しい疑問が湧いてきます。気づいたことや疑問点などをカードに書き出しておく、インタビューの計画を立てるときに活用できます。

Q 4

インタビューをする相手が大人の人になりますが、相手はどのようにして探せばよいでしょうか。

A 4

何について知りたいかが決まれば、尋ねる相手はおのずと決まってきます。まず、教職員や保護者、地域の人に協力してもらうのがよいでしょう。よく知っている相

手なので、三年生の子どもたちも、安心してインタビューに挑戦することができます。そこで、教師が、地域の人材や施設などを日ごろから把握しておき、事前に協力の依頼をしておくとういでしょう。まずは、身近な相手



にインタビューをし、少し慣れたところで、初めて会う相手にインタビューをするという単元展開も考えられます。

Q 5

調べるグループを決めるときに、どのような配慮が必要でしょうか。

A 5

教科書には、「もつと知りたいなと思ったことを、グループごとに一つえらびましょう。」とありますが、興味・関心の似た者同士を同じグループにする方法もあります。小グループをいくつか合わせて、大グループを編成し、インタビューは小グループで、まとめと発表は大グループで行うこともできます。

方法は一つではありません。児童の実態や人数に応じて、いろいろと工夫できます。

昔の学校 ・勉強の様子 二人 ・給食の内容 二人 ・子どもの服装 二人	昔の遊び ・べいごま 二人 ・うち遊び 二人 ・お正月遊び 三人
--	---

A 6

指導書の付録CDをご活用ください。次のような構成になっています。

CD 4 インタビューの練習をしよう

先生に相手役になってもらいながら、二人の児童がインタビューの練習をする様子の中に、児童が陥りやすい点が表示されています。

CD 5 インタビューをしよう

実際におじいさんにインタビューをしているとてもよくできた例が示されています。

繰り返し聞きながら、注意する点や真似したい点などを出し合い、掲示物などにまとめておくとういでしょう。児童にとっては、それが学習のめあてとなります。

Q 7

インタビューの練習は、どのようにしたらよいでしょうか。

A 7

最初のあいさつや最後のお礼、インタビューの切り出

Q 6

インタビューをするときの手順や注意事項について、子どもたちが気づくことができるような音声教材はありませんか。

しの質問を練習し、互いに聞き合って、アドバイスをする程度で十分だと思います。

Q 8

インタビューの依頼は、どのように指導したらよいでしょうか。

A 8

インタビューをお願いする依頼状は、ぜひ子どもたちにかかせるとよいと思います。「伝え合う力」は「話すこと・聞くこと」の領域だけで育てるものではありません。相手と目的を明確に意識し、手紙を受け取る相手の立場に立って、言葉を選んだり、文字を正確に書いたりすることで、「伝え合う力」が育ちます。

直前の訪問時間の確認などは、事前に練習してから電話で行うのもよいでしょう。

もちろん、教師が、事前に相手に対して学習計画を示し、手紙で依頼する必要があります。

Q 9

インタビューのメモのとり方は、どのように指導したらよいでしょうか。

A 9

児童には、インタビューをするときは、インタビュー

いずれにしても、児童の実態と、これまでの学習経験の積み重ねにより、方法を選ぶことが大切です。

Q 10

インタビューは、一回だけでなく、何回もさせた方がよいのでしょうか。

A 10

経験を積むことで、慣れてくるのは確かです。何回もさせるにこしたことはありません。しかし、国語科の授業で大切にしたいのは、振り返りの時間です。実際に行ったインタビューのうち、いくつかの例を、教師がシナリオのように文字に起こします。また、前述の付録CDのシナリオを利用することもできます。

一回目のインタビューでは、一つ質問をして、それに答えてもらうと、次が続かなくて、インタビューが終了してしまう場合も多いと思います。子どもたち自身も、もう一回挑戦したいと思っていることが多いものです。録音テープやCDを聞いて、相手から詳しく話を引き出すことに成功しているインタビューでは、あいづちを打ったり、分からないことを尋ね返したりしていることに、児童自ら気づかせるようにします。「よし、今度は、分からないことがあったら、遠慮しないで尋ね返してみよう。」と課題意識をもって、二回目のインタビューに挑



に集中できるようにする方がよいでしょう。インタビューの質問に相手が答えてくれた後、児童は、話をどうつなげていくかを考えます。メモをとらせてしまつと、書くことに気をとられ、

思考がストップしてしまいます。そのために、ペアを組ませ、インタビューをする人と、メモをとる人に分ける方法があります。しかし、自己中心性の残る三年生の児童が、グループの共通課題であるという意識をどれだけもてるかが問題となります。自分のインタビューの順番でないときには、緊張感を欠き、メモをとることを忘れてしまうこともあります。このようなときは、ワークシートを作ってもたせるなど、グループの共通課題は自分の課題であるという意識を育てておくことが大切です。

他に、児童に小さな録音機を持たせ、インタビューを録音する方法があります。その場合は、教室に戻ってから、録音テープを再生しながらメモをとることになります。録音する場合は、事前に教師から相手に録音許可をとっておき、また、児童からも、「録音してもよろしいですか。」と、許可を得る言葉を言わせるようにしましょう。

戦することができれば、回数だけを重ねるより、学習効果は大きいと思います。

国語科以外の教科や領域でも、インタビューのチャンスはたくさんあります。国語科で学んだことを子どもたちが生かせるように、教師が、意図的、計画的に、年間学習指導計画を組み立てることが必要です。

